



## ご来校ありがとうございました

— P T A 参観日 —

7月3日（日）に開催したP T A参観日に、ご多用中にもかかわらずご来校くださったご家族の皆様ありがとうございました。

4月のP T A参観日の折には、新型コロナウイルス感染症の感染状況の悪化より、やむを得ず授業参観中止の決断をし、申し訳なく感じておりました。

今回は、各クラスとも学級担任による授業で活動する子どもたちの様子をご覧いただきました。ご家族の参観を受けて、生徒たちの授業に対するモチベーションが心なしか上がっていたように見えました。

次のP T A参観日も、感染状況が落ち着いた中で迎えたいものです。

## 授業中の反応について

生徒会長のC.Fさんは、いつも全校生徒に「授業中の反応をよくしよう」と呼びかけてくれています。

今日はその“反応”に関係したコラムを紹介したいと思います。

### あいづちは、人の心の真実を 汲み出す誘い水 [松下幸之助]

松下電器製作所（現パナソニック）の創業者で「経営の神様」の異名を持つ松下幸之助（1894～1989）は、「人間関係を円滑にするにはどうしたらよいか」と質問されて、「相手の話をよく聞いて、あいづちを打つことです」と答えている。きょうの言葉はそれに続くものだ。

話し上手は聞き上手とよくいわれるが、いくら弁が立つ人でも、聞き手側の反応が一切なければ、勢いを失って話はしぼんでしまうはずだ。反対に適切なあいづちによって心地よい会話のリズムをつくり出せば、しゃべるのが苦手な人からも、普段は隠している本音を引き出すことができる。

社会人向けの話し方の本を読むと、あいづちの様々なテクニックが紹介されている。話している相手の目を見ること。話の速度に合わせてリズムよくうなずくこと。一本調子にならぬようリアクションに強弱をつけること。相手の使った言葉を繰り返せば、相手がそれについての話題を広げる手伝いになる。

だが、一番大切なのは、話している相手に心から興味を持つことだ。結局のところ、他人に真剣に向き合うことが、すべての基本なのである。目の前にいる相手を知りたい、話を聞きたいと思う気持ちは、あいづちの技術以上に心を打つ。

（翻訳家・矢口誠）

教室は、集団で学び合う“場”です。そこで話す人には状況に応じた声量や体の向きで、相手にわかってもらおうとして話す「やさしい話し方」が、聞く人には話している人に真剣に向き合う「あたたかな聞（聴）き方」が必要になると思います。この話している人に真剣に向き合うことこそが、一番の反応であるとも感じます。

生徒の皆さんには、コミュニケーションを図るときの基本とも言える「やさしい話し方」や「あたたかい聞き方」を、日々の授業をとおして身につけてほしいと願っています。

## 「せんぼく ふるさと検定」に挑戦してみませんか

8月6日（土）、角館交流センターで、小中学生を対象とした「せんぼく ふるさと検定」が開催されます。（詳細につきましては前に配付したリーフレットのとおりで）

「ふるさと検定」への挑戦は、ふるさと仙北市を再発見、新発見できるよい機会になると思います。

挑戦希望者には、学校にある「ふるさと仙北学」の冊子を貸し出しますのでお知らせください。

## 還暦を祝っていただきました

7月1日は、私の60回目の誕生日でした。朝、校門で生徒を迎えていると、何人かの生徒から「校長先生、誕生日おめでとうございます」と声を掛けられましたが、何で知っているのかな……と不思議に感じていました。

その日の午後は、全校で集会の際の体育館への入場や整列の仕方などを確認していました。私は、田沢湖駅伝競走大会実行委員会の会議中でした。すると、教頭先生が「ちょっと体育館へ……」と呼びに来ましたので、不思議に思いながら体育館へ向かいました。

そこはなんとサプライズのお祝い会場になっていました。60年で一番の誕生日になりました。皆さんありがとうございました!!

出場種目成績 (順番は実施順)			
◎50M平泳ぎ			
6年女子	第9位	小松紗雪	1分06秒43
6年男子	第14位	池田碧威	55秒97
6年男子	第9位	菊地航輔	52秒30
◎50Mバタフライ			
6年女子	第4位	小松紗雪	58秒84
◎50M背泳ぎ			
6年男子	第3位	菊地航輔	49秒93
◎50M自由形			
3年女子	第4位	斎藤日菜子	1分00秒54
5年女子	第16位	大庭 咲	53秒69